

新研修体系の概要

近年、東京精神保健福祉士協会（以下、東京協会）の会員構成に変化が見られ、医療や障害福祉に加えて、行政・学校教育・司法・産業など多様な職域で活躍する会員が増えてきている。

東京協会は会員の実態と研修ニーズを把握するために、2015年11月に『研修ニーズと業務状況に関する調査』を実施した。その調査結果を元に研修部では、「何を大切に、どのような内容を会員へ提供していくのか」について議論し、2017年度より「新研修体系」の実施を開始した。

新研修体系の全体像は図1のとおりである。研修委員会主催の「ファウンデーション研修」、「スキルアップ研修A・B・C」は、経験年数や職場における立場に応じた階層的な研修体系となっており、ソーシャルワークの共通基盤となるジェネリックな知識・技術を身につけることを目的としている。そして、職域特有の知識や技術は各委員会（災害支援ソーシャルワーク委員会、権利擁護委員会、自殺対策委員会、司法ソーシャルワーク委員会、スーパービジョン運営委員会）がテーマ別研修を開催し、よりスペシフィックな知識・技術の習得を目指す体系となっている。この他、東京協会とは別団体となるが、全国組織である日本精神保健福祉士協会による生涯研修制度（基幹研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）も活用することで多層的な学びの機会が得られる。

図1 「新研修体系」の概要

	1～3年目	4～9年目	10年以上
東京精神保健福祉士協会	ファウンデーション研修 / トピックス研修		
	スキルアップ研修A		
	スキルアップ研修B		
	スキルアップ研修C		
	テーマ別研修 【災害支援・スーパービジョン・権利擁護・自殺対策・司法】		
健日福本 会社精 士神 協保	基幹研修Ⅰ / 基幹研修Ⅱ / 基幹研修Ⅲ		
	認定精神保健福祉士対象研修		

以下は、研修委員会主催研修の概要である。

①「ファウンデーション研修」

ソーシャルワーク実践の土台（ファウンデーション）となる知識・技術を学ぶことを目的

としている。この研修は幅広い受講者層を対象に、ソーシャルワークの専門的視点が発揮される「アセスメント」とその後の展開である「プランニング・モニタリング・エヴァリュエーション」に焦点をあてた研修内容を提供する。

②「スキルアップ研修 A」

クライアントとの出会い（電話相談、事前見学、初診など）から初回面接に向けての準備性を焦点とした研修内容を提供する。具体的には、インテーク技術のほか、基礎的な面接技法のスキルアップを目指す。精神疾患や治療に関する知識を踏まえ、疾病に配慮した面接の展開を学ぶ。

③「スキルアップ研修 B」

精神保健福祉士が行う専門的援助には、専門知識の幅の広さと深さ、および介入のスキルが求められる。そこで、支援の幅を広げる（介入のレパートリーを増やす）ことを目的に、様々なアプローチ方法（特定技法、場面別技法、リハビリテーション技法など）を習得する研修を提供する。

④「スキルアップ研修 C」

人が人にサービスを直接提供する福祉サービスでは、質の高い人材の育成と定着が必要不可欠である。そこで主に管理者的立場にある精神保健福祉士を対象に、組織運営管理やリスクマネジメント、人材育成の方法などに関する知識・技術を習得する研修を提供する。

★受講のイメージ

初めて現場へ出た A さん

新人の A さんは、先輩からの勧めで「スキルアップ研修 A」に参加。基本的な面接技術の知識を再確認するとともに、演習を通して自分の面接スタイルの「くせ」に気づくことができた。東京協会の非会員であったが、この研修を機に入会し、定期的に研修を受講している。

後輩が増えてきた B さん

現場経験 6 年目となり組織の中で中堅となってきた B さん。自身が業務を教える事も増えてくるなかで、1つ1つの業務に対する知識を深めスキルアップに繋がりたいと考え「スキルアップ研修 B」に参加。普段の業務実践の知識的裏づけが出来たほか、グループワークや危機介入の方法など組織内ではなかなか学べない知識と技術を習得することができた。